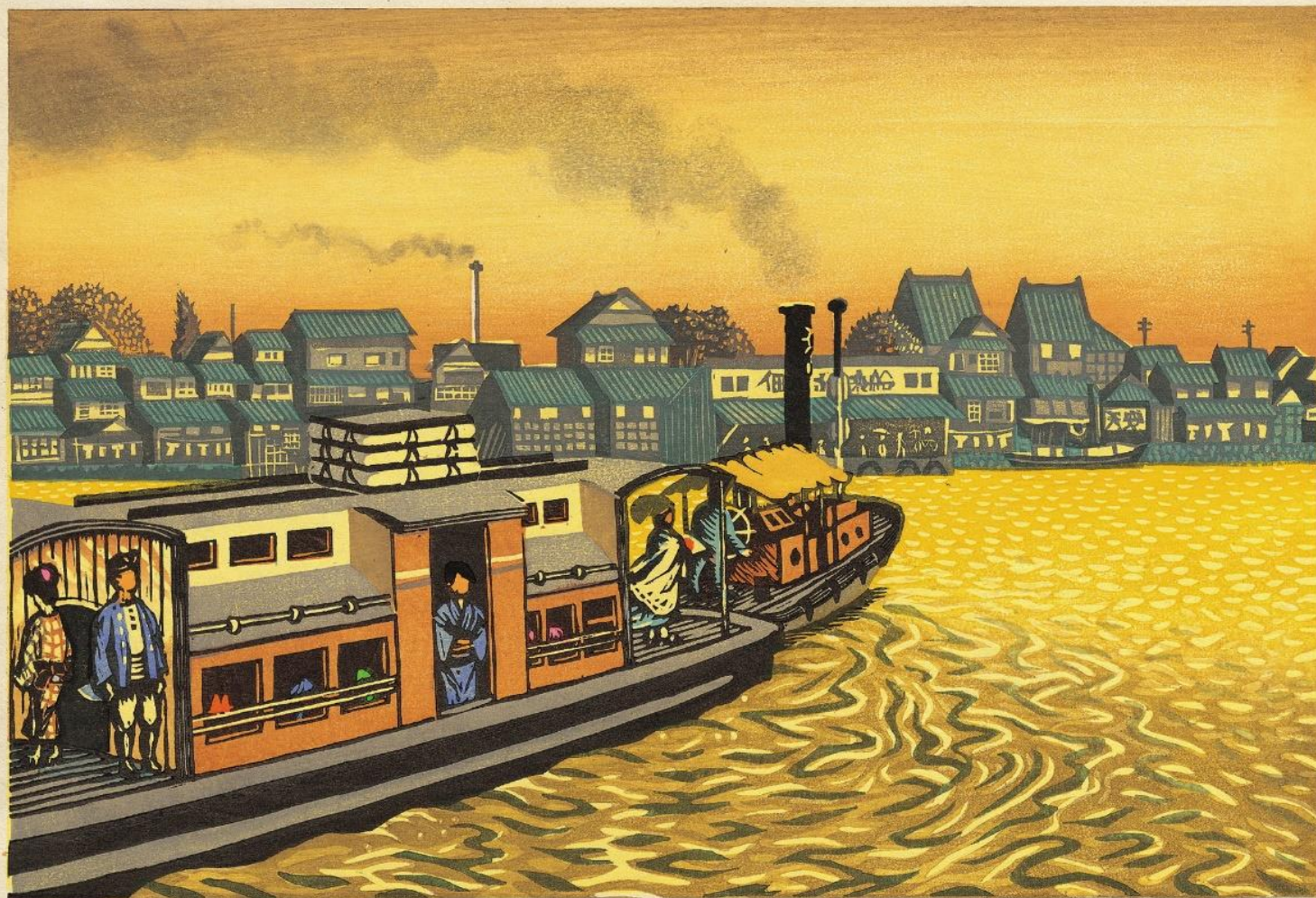


川上澄生ゆかりの版画家

山高登回顧展



渡船大つごもり

76/100

Koboru Yamataka

山高登《渡船大つごもり》一九八一（昭和五六）年 木版多色刷 紙

2022年**9月10日（土）** ▶ **11月27日（日）**

会場：鹿沼市立川上澄生美術館 1階展示ホール（入場無料）、開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日：月曜日（9月19日、10月10日は開館）、9月20日（火）、10月11日（火）、10月18日（火）、11月4日（金）、11月24日（木）

鹿沼市立川上澄生美術館

〒322-0031 栃木県鹿沼市睦町 287-14 TEL 0289-62-8272
<https://kawakamisumio-bijutsukan.jp/>



川上澄生ゆかりの版画家 山高登 回顧展

やまたかのぼる
山高登（1926～2020）は東京出身の木版画家です。1962（昭和 37）年から新潮社に勤めながら、独学で木版画を学びました。作品の主題は主に街の風景であり、題材を得るために方方を歩いたうえで、人々の息づかいが聞こえてくるような情緒のある街の姿を写し捉えています。また、木版画の技法としては、多色刷による鮮やかな作品が多く、さらに「ぼかし」を効果的に使い、画面にリアリティを加えるのが特徴です。こうした作風や技法の点において、川上澄生と共通するところがあり、川上澄生美術館の名誉館長で熱心な山高作品のファンのひとりであったはせがわかつさぶろう長谷川勝三郎は「川上澄生の後継者」として高く評価しました。

本展では、山高の作品のなかでも栃木県の宇都宮、栃木、そして鹿沼の風景を中心に紹介し、その画業の一端を振り返るものです。

出品作品リスト

No.	作品名	制作年	技法・素材	寸法 (cm)	題材となった場所	所蔵
1	青い跨線橋	2006（平成 18）年	木版多色刷 紙	25.0×35.0	栃木県宇都宮市（鶴田駅）	版画山高蔵
2	栃木旧駅	2005（平成 17）年	木版多色刷 紙	23.0×32.5	栃木県栃木市	版画山高蔵
3	蔵の街夕照	2005（平成 17）年	木版多色刷 紙	22.0×32.5	栃木県栃木市	版画山高蔵
4	店蔵	1995（平成 7）年	木版多色刷 紙	22.0×32.5	栃木県栃木市	版画山高蔵
5	教会と雑貨店	1988（昭和 63）年	木版多色刷 紙	22.5×32.5	栃木県栃木市	版画山高蔵
6	蝙蝠	1988（昭和 63）年	木版多色刷 紙	22.0×33.0	栃木県栃木市	版画山高蔵
7	小さな終着駅	1990（平成 2）年	木版多色刷 紙	22.0×33.0	千葉県銚子市銚子駅	版画山高蔵
8	棕櫚の花	1995（平成 7）年	木版多色刷 紙	18.0×13.0	栃木県栃木市	版画山高蔵
9	品川晩夏	1993（平成 5）年	木版多色刷 紙	22.5×32.5	東京都品川区北品川	版画山高蔵
10	町裏	1977（昭和 52）年	木版多色刷 紙	22.5×33.0	東京都荒川区南千住	版画山高蔵
11	渡船大つごもり	1981（昭和 56）年	木版多色刷 紙	22.0×32.5	東京都中央区佃	版画山高蔵
12	炎晝	1982（昭和 57）年	木版多色刷 紙	24.0×30.0	東京都文京区湯島	版画山高蔵
13	奥美濃	1983（昭和 58）年	木版多色刷 紙	22.0×32.5	岐阜県郡上八幡市	版画山高蔵
14	三方浅春	1981（昭和 56）年	木版多色刷 紙	28.0×36.0	福井県美浜町・若狭町（三方湖）	版画山高蔵
15	春晝	1977（昭和 52）年	木版多色刷 紙	22.5×32.0	千葉県佐倉市	版画山高蔵
16	霜月の六区	1990（平成 2）年	木版多色刷 紙	22.0×32.5	東京都台東区浅草	版画山高蔵
17	緑園	2000（平成 12）年	木版多色刷 紙	26.0×33.0	青森県弘前市	美竹遊民舎蔵
18	鹿沼の秋祭	2004（平成 16）年	木版多色刷 紙	21.7×32.2	栃木県鹿沼市	鹿沼市立川上澄生美術館蔵